

新人紹介

研究員 水野 健一郎

この度、水産海洋技術センターに新人として配属になりました水野と申します。

学生時代では、仔稚魚（魚の赤ちゃん）の生態に興味を持ち、時には調査船で寝泊りしながら、時には全国津々浦々の藻場に赴き魚類採集を行うなど、海というフィールドを直接肌で感じながら研究に携わってきました。

就職活動も迫ってきたある日、水産海洋技術センター一般公開の知らせを聞き「ちょっとのぞいてみようか」と足を運んだのが当センターとの出会いです。正直、県の水産海洋技術センターが具体的にどのような研究や活動をしており、どのようなことに貢献しているのか想像ができない中での訪問でした。しかし大学での研究とは異なり、本県の現実問題として必要とされ、直接貢献度の高い研究や調査に取り組んでおり、「ここを目指そう」と半ば一目惚れのような勢いで決心したのを覚えています。現在は、目標とした場所に運良く配属され、使命感と責任感を感じているとともに、新人という強みを活かし、なににでも挑戦する姿勢で業務にあたろうと意気込んでいます。

現在私が担当している業務は、「赤潮監視」と「赤潮がカキに与える影響の研究」です。一度発生してしまうと億単位の被害にもなりかねない赤潮は、養殖業を営む漁業者の生活や水産物の安定的な供給を脅かす非常に怖い存在です。そのため、赤潮が発生しないか定期的に調査し早期発見することや、広島県の養殖業の主役を担うカキに与える影響を明らかにすることで、被害の未然防止に努めています。被害が出てしまうと漁業者の生活に直結してしまう業務のため、日々責任を感じながら業務にあたると同時に、より確実な赤潮被害防止策はないかと、少ない頭ながら考えをめぐらせている状況です。

まだまだ浮遊期から着定したばかりの稚魚のような人間ですが、漁業者の方々や水産企業の方々、またそれを取り巻く広島県民の方々に対して、「自分には何ができるのか、本当にこれでいいのか」を常に自問自答しながら、立派な成魚となれるよう日々精進してまいりたいと考えております。どうぞご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

転入挨拶

主任研究員 村田 憲一

県庁水産技術指導担当から転入してきました。当センターでの勤務は2回目で、まだ水産試験場時代の平成8年から13年まで5年間研究員をしておりました。当時の建物は老朽化がひどく、コンクリートの剥落があちこちで発生しており、当然建て替えの話が出ておりましたが財政難ということもあり、話が進まなかったようでした。ところがとうとう屋根のコンクリートがごっそり脱落するという事件が起こり、ついに建て替が実現したと聞いております。私も新しい水産試験場の建て替えの資料とするため、他県の水産試験場を中心に資料集めの出張などをしましたが、基本計画・設計が始まる前に転勤になってしまい、残念な思いをしたものでした。

入庁してからの私の経歴は、広島県栽培漁業センターへの出向4年、水産業改良普及員の期間が通算16年、前記した研究員の期間を含めるとほとんどが現場・現物相手の仕事でした。その間には現場を離れたいわゆる「事務仕事」を何年かしていた期間

もありましたが、いつかは漁民や漁協の方々と直接触れ合える仕事がしたいと考えていました。この4月から念願かない、水産海洋技術センターに戻ることができました。

すでに40代を通り過ぎて、加齢という現実を思い知らされるような年齢になりましたが、精神的には30代の気持ちで仕事に立ち向かっていこうと思っております。みなさん、よろしくお願ひします。



職員の異動

(4月1日付)

本年度は、6名の方々が転出され、4名の方が赴任されました。

転出

センター長	前川 啓一	退職
主任専門員	帯刀 俊彦	農業技術センターへ
主任専門員	宮崎 幸恵	西部総務事務所呉支所へ
副主任研究員	小田 新一郎	保健環境センターへ
副主任研究員	田村 義信	水産課へ
主任	加藤 肇	保健環境センターへ

転入

センター長	加藤 友久	水産課から
主任	幹 佐々木 伸男	西部総務事務所から
主任研究員	村田 憲一	水産課から
研究員	水野 健一郎	採用